

未来を拓く中国製品 — イニシャルコスト、 ランニングコスト兼備を狙い —



中国プロジェクト
執行役員

ゆ しん けつ
俞 箴 潔

冒頭での余談。先日2018年サッカーワールドカップの幕が閉じた。私は上海で勤務中だったが日本チームを応援してきた。史上ベスト成績の16位入りさせたのはチームワークの団結力だと深く感心した。4年に1回世界レベルの戦いで弱いチームが力強く変身し、逆に従来の強いチームが負けるなど信じられない結果を何度も見た。過去の経験、栄光、成績に執着しても安心できないと危機感も覚えた。

中国工具発足まもなく12年となる。取り扱う商材も超硬工具からダイヤモンド工具を加え、最近力を入れているCBN工具まで広がった。当初は荒加工だけでしか使えなかった工具は仕上げ加工でも負けない品質まで成長した。北京ワールドダイヤモンド工具のオリジナルPCDフライスカッターはアルミ加工を1つのカッターで荒、仕上げ加工まで可能になる。最大切込み9mmの重切削向けダイヤモンドチップはアルミ鋳造工場のニーズにぴったり合い、多刃設計による高送り、高回転を実現。イニシャル、ランニングコスト共に優れた工具とお客様から絶賛された。工具設計はノウハウの貯蓄、お客様現場、加工を熟知した上の結晶であり、日本では軽量部品加工が多く、BT30主軸が多い。剛性不足もあり、ビビリ発生によるアルミ加工不良が現場の課題だ。従来のダブル金属フライスカッターは十分軽く設計されていたが、さらに軽くならないか？ とBT30主軸機械を所有されるお客様から多くの要望を頂いた。1年の試作研究を繰返した結果、新シリーズが誕生した。

従来のフライス製品に加え、今年11月のジムトフにて正式発表される。

CBNインサートシリーズはセラミックチップの代わりにソリッドタイプチップを設計、寿命を10倍に伸ばし、加工効率大幅アップ。お客様現場の状況にあわせ刃先をカスタマイズできる強みを生かし、1社1社の加工ニーズに合ったきめ細かいサービスを行うことにより、2018年の売上は倍増の見込み。まだまだ販売目標の数分の一にしか過ぎないがハードターニング、鋳物高速加工業界で広がっていく日が遠くないと信じる。

最近会社として力を入れているもう1つの分野はロストワックス製品である。6月の機械要素展に参加し、中国3社製ステンレスと鋳鋼部品を展示した。ターゲットは日本のポンプ、バルブメーカーへのPR。ステンレス鋳造品は独特な性質があり、湯口位置の設計から成分分析、熱処理、砂穴の補修、圧力試験。漏れ試験など欠かせない。お客様の仕様、用途を理解した上で中国の有力ロストワックス会社とタイアップし、中国で鋳造品を調達したいお客様に、より安心できるサービスを行うことは弊社のミッションと感じている。

以上の工具、鋳造品のみに関わらず、中国に関する情報、探してほしい製品など、気軽にご相談頂ければできるだけだけの回答を差し上げる。日本のサッカーチームと同じく、点から線、線から面で商材を開拓、日本工場のグローバル調達に貢献できることを目標としている。